

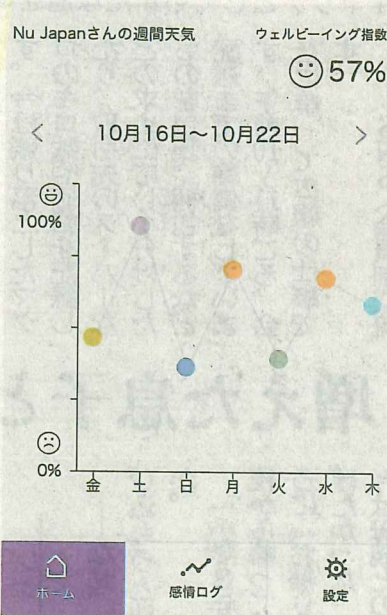
# 「幸福度」感情を可視化

## 樽商大大学院生らがアプリ

小樽商大大学院生らが起業した株式会社「NU Japan (ヌージャパン)」(千歳市)が、日々の感情を無料通信アプリLINE(ライン)上に「幸福度」の指数や天気のマーカーで記録するチャットサービス「BeDO(ビードゥー)」を開発した。コロナ禍でコミュニケーションが制限される中、「感情を可視化し他者に理解してもらうことでストレス軽減につなげられないか」と考案した。

同社は同大大学院アントレプレナーシップ専攻2年で、札幌で医師として働く安田宏さん(54)が昨年5月に起業。同大大学院生で医師の今村恵さん(31)ら、医療職やコンサルタントな

## コロナ禍でのストレス軽減に



「BeDO」の画面。日々の「幸福度」を折れ線グラフで表し、感情を可視化する

どを本業とする7人が在籍する。

「BeDO」は利用者がライン上で、同社が委託した医療職ら「返答者」と交換日記のようになりとりを行う。利用者は返答者からの問いかけに対し、その日の感情を「晴れ」「曇り」などの天気と、0~100まで

の「幸福度」で表現。日々の幸福度指数は折れ線グラフに、会話の内容は日記のように蓄積され、感情の移り変わりを客観視できる。利用料は月5千円。

安田さんは「病院での診察では手が届かない、個人の根底にある感情をアウトプットできるサービスを提供したい」と話す。利用申し込みは同社ホームページから(<https://nujapan.es>)。(日野夏美)

## 大学共通テスト 樽商大でも

# マスク姿「ベスト尽くす」

大学入試センター試験の後継として今年から始まった大学入学共通テスト初日の16日、後志管内唯一の会場となる小樽市の小樽商科大でも試験が始まり、受験生たちが真剣なまなざしで答案用紙に向かった。新型コロナウイルス禍での受験となり、みなマスクを着用して感染予防に気を使いながら試験に臨んだ。(日野夏美)

同大で受験する志願者は男性289人、女性199人の計488人。前年より62人少ない。

受験生は午前8時ごろから次々と同大に到着。コロナ禍のため、高校教員らが校門付近で応援する姿もほとんど見られない中、緊張しながら会場に入った。

交通機関の乱れなどはなく、予定通り最初の教科の「地理歴史・公民」の試験

を開始。会場内ではマスク着用を義務づけ、座席の間隔を1席以上空けるなど感染対策がとられた。

英語教師を目指し北海道教育大函館校を志望する岩内高3年の鈴木聖さん(18)は「コロナ禍で思うように勉強ができない時期もあったが、インターネットなどを利用して学習したといふ「ベストを尽くしたい」と意気込んだ。北海学園大

志望の小樽潮陵高3年の蜂屋響さん(18)は「(センター試験から)配点が変わった英語中心に勉強した」と気合を入れていた。

この日は「国語」「外国語」も実施。問題用紙の配布遅れで一部の教室で開始時間が3分遅れた科目もあったが大きなトラブルはなかった。20日の17日は「理科」「数学」を行う。



初の大学入学共通テスト初日、小樽商科大の会場に試験に臨む受験生たち。16日午前9時15分ごろ

# 共通テスト 初日終了

## 中止の稚内、30日再試験

大学入試センター試験の後継となる初めての大学入学共通テスト初日の16日、「地理歴史・公民」「国語」「外国語」の3教科が全国一斉に行われた。道内では稚内北星学園大会場で暴風雪のため、同日の全教科の試験が中止となり、30日に再試験が実施されることになった。一日の全日程が中止となるのは、センター試験、さらに前身の共通一次試験を通じて初めて。新型コロナウイルスの感染が拡大する中、各会場とも警戒態勢で臨んだ。

## 感染警戒 道内1万7千人

稚内北星学園大会場では73人が受験する予定だったが、同日がある稚内市内では16日、悪天候で公共交通機関が運休したことなどがあつた。同センター（東京）が中止を決定。17日の

試験は実施される予定。道内ではこのほか、苫小牧駒沢大で視覚障害がある受験生1人に対し、誤った試験問題が配られるミスがあつた。同センターが事前に障害に配慮した試験問題を大学に送った際、受験予定の科目を誤った。同センターは、再試験の実施を申し出た。「外国語」の科目「英語リスニング」で音声再生機器の不具合があつた。北大、小樽商科大、道科学大で計6人が中絶箇所からやり直す「再開テスト」を受けた。

### 道内受験状況(16日)

	受験者数(人)	受験率(%)
地理歴史・公民	1万3106	77.5
国語	1万4612	86.4
外国語	1万4749	87.2

※大学入試センター発表。第1日程の道内出願者は1万6917人  
※外国語は筆記もしくはリーディング分



16日に共通テストが実施されたのは、道内25会場を43人。受験者数が最多の

含む全国680会場。出願者数は前年度のセンター試験より2万2454人少ない53万5245人で、道内は同918人減の1万691人。受験者数が最多の

「外国語」は全国で47万7035人が受け、受験率(出願者数に対する受験者数)の

割合は89.2%。道内は1万4749人で、87.2%。17日は「理科」と「数学」

が行われる。16、17日の第1日程に加え、新型コロナウイルスに伴う休校で学習が遅れた

人などを対象に30、31日に第2日程が設けられる。(音藤千絵、大能伸悟)

## 戸惑う新形式/目立つ地元志向

大学入学共通テストが始まった16日、初日の試験を終えた道内の受験生からは大学入試センター試験から衣替えした問題に「予想と違った」と戸惑いの声があつた。一方、各会場では入念な新型コロナウイルスの感染予防策が取られた。首都圏などに進学した学生がコロナ禍で孤立するケースが相次いだことから、志望校選びでは地元志向が目立った。

「英語でスマートフォンでのメッセージのやりとりに関する設問が出るなど見慣れない問題が多く、手間取った」。道教大釧路校で試験に臨んだ釧路湖陵高3年の藤井ほのかさん(17)は初めて行われた試験への対応の難しさを口にした。

共通テストはセンター試験と比べ、思考力や読解力を重視するほか、英語のリスニングの配点を倍増。英語の民間検定試験の活用と国語、数学への記述式問題の導入が直前になって見送りとなる混乱もあつた。

室蘭工業大で受験した登別明日中等教育学校6年生(18)は「模試などで対策してきたが、英語のリーディングが予想した出題形式と違った」と話した。

新型コロナウイルスの感染が再拡大する中、各会場は警戒態勢に。約1200人が出願した北海学園大では、受験生が前後1分間隔を確保できるように試験室を昨年度の5教室から10教室に倍増。札幌月寒高3年の日下美羽さん(18)は「他の受験生と間が離れ安心して受験できた」と振り返った。

道内では新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者でPCR検査が陰性だったり、マスクの着用が体質上難しかったりしたため、規定に基づき別室でテストを受けた受験生もいた。

一方、暴風雪で午前9時半の1教科目開始前に試験の中止が決まり、30日に再試験を行うことになった稚内北星学園大では、職員が午後から来場する予定だった受験生に電話で日程の変更を伝えるなど対応に追われた。

13日から稚内市内に宿泊し受験に備えたという礼文高3年の西隆生さんは「2週間勉強できる時間が増えた」と前向きに考えている。新型コロナウイルスの収束が見えない中、迎えた初の共通テスト。受験生の間では、家族や友人を頼りやすい道内の大学を目指す傾向が強まっている。

道教大旭川校で受験した旭川東高3年の溝口直樹さん(18)は、北大総合入試理科系を志望する。将来の夢は薬剤師。「新型コロナウイルスの感染拡大が将来の職業を考えるきっかけになった。2日目も頑張ります」と意気込みを話した。

道教大旭川校で受験した旭川東高3年の溝口直樹さん(18)は、北大総合入試理科系を志望する。将来の夢は薬剤師。「新型コロナウイルスの感染拡大が将来の職業を考えるきっかけになった。2日目も頑張ります」と意気込みを話した。

道教大旭川校で受験した旭川東高3年の溝口直樹さん(18)は、北大総合入試理科系を志望する。将来の夢は薬剤師。「新型コロナウイルスの感染拡大が将来の職業を考えるきっかけになった。2日目も頑張ります」と意気込みを話した。

道教大旭川校で受験した旭川東高3年の溝口直樹さん(18)は、北大総合入試理科系を志望する。将来の夢は薬剤師。「新型コロナウイルスの感染拡大が将来の職業を考えるきっかけになった。2日目も頑張ります」と意気込みを話した。

道教大旭川校で受験した旭川東高3年の溝口直樹さん(18)は、北大総合入試理科系を志望する。将来の夢は薬剤師。「新型コロナウイルスの感染拡大が将来の職業を考えるきっかけになった。2日目も頑張ります」と意気込みを話した。

# コロナ、試験 難問苦闘

## 共通テスト初日

### 周囲でせき「集中途切れ」

大学入学共通テストが16日に始まり、道内でも悪天候で中止となった稚内北星学園大(稚内市)を除く19大学25会場で試験が行われた。新型コロナウイルスの感染対策に神経をとがらせ、初めての試験に戸惑いながらも、受験生は将来の夢に向かって一歩を踏み出した。



北海道大の会場で試験の開始を待つ受験生(16日、札幌市北区)。代表撮影

#### 消毒して会場へ

第1日程(16、17日)の道内志願者数は1万6917人。午前8時頃からマスク姿の受験生が集まり始めた北海道大(札幌市北区)では、予備校の講師らが沿道に並んで応援する例年の光景は見られなかった。受験生は、建物入り口に設置された消毒液を手指に吹きかけ、言葉少なに会場に向かっていった。長男の見送りに訪れた地方公務員の男性(49)は「息子はコロナに振り回され大変だと思うが、実力を出し切ってほしい」と静かに見守っていた。

会場では「マスクの着用をお願いします」とのアナウンスが流れ、受験生は昼食時も会話を控えるよう求められた。こうした感染対策は、大学入試センターの指針に基づいて全ての会場で行われた。

ただ、北海道教育大岩見沢校(岩見沢市)で初日の試験を終えた道立高の男子生徒(18)は「席の間隔が狭くて『密』だなと思った」と困惑した様子で語った。北見工業大(北見市)で受けた道立高の女子生徒(18)は看護師を目指しているといい、手洗いやマスクの着用を徹底し、家族間でも食事の時間をずらすなど細心の注意を払ってきたが、「英語のリスニング中にせきこむ音が聞こえた。コロナのことが頭をよぎ像と違った部分もあったようだ。」



試験会場に入る前に手指を消毒する受験生(北海道大で)＝松本拓也撮影

#### 想定外の問題

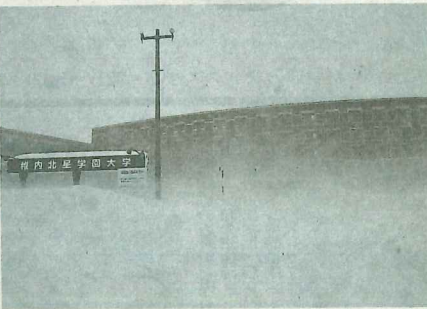
センター試験に比べ、思考力・判断力・表現力を重視した出題となった共通テスト。受験生は事前に準備を重ねてきたが、想像していたのと違い、問題文を見たときかなり焦った。私立高校に通う女子生徒(18)もそう語り、別の女子生徒(18)は「読解力と思考力を問われていると感じた」と振り返った。

#### トラブル次々

トラブルも相次いだ。中止になった稚内北星学園大や、入試センターが誤った問題を送って1人が再試験になった苫小牧駒沢大(苫小牧市)のほかにも、北海道大と北海道科学大(札幌市)、小樽商科大(小樽市)の計3会場で、6人が英語のリスニング試験中に再生機器の不具合を訴えるなどし、改めて試験を受けた。問題配布に時間がかかり、試験の開始が数分遅れた会場もあった。

## 道北など暴風雪 交通機関乱れ

発達した低気圧の影響で、16日の道内は道北やオホーツク海側を中心に暴風雪となった。交通機関も大きく乱れた。



暴風雪に見舞われ、大学入学共通テストの初日が中止となった稚内北星学園大(16日午前、稚内市)

札幌管区気象台によると、16日の最大瞬間風速は、斜里町ウトロ高原で28・5メートルを記録。大学入学共通テストが中止となった稚内北星学園大のある稚内市の中心部では26・1メートルを観測した。16日午後6時までの24時間降雪量は天塩町で31センチ、稚内市の中心部で

## 稚内北星学園大 中止に

この影響で、空の便は、千歳と稚内や釧路、中標津をそれぞれ結ぶ計8便が欠航。JR北海道も旭川・稚内間の「特急オホーツク」など特急5本を含む24本が運休した。17日も宗谷線を中心に一部で計画運休する。17日は日本海側を中心に大雪となる予報。17日午後6時までの24時間降雪量は後志地方や檜山地方で40センチと見込まれる。



留学生に日本酒の魅力を体験させる

## SAKEの奥深さ 留学生に

### 小樽 田中酒造で初セミナー

日本酒の外国での認知度を高めようと、小樽市信春町の田中酒造亀甲蔵で15日、小樽商大の留学生を招いて日本酒セミナーが開かれた。韓国や中国出身の3人が参加し、日本酒の楽しみ方の手ほどきを受けた。

札幌国税局と北海道酒造組合(札幌)の共催。口コミでの情報の発信・拡散を通じて輸出促進につなげる狙いで、初めて行われた。

田中酒造の岡田栄造専務が講師を務め、純米大吟醸など日本酒の種類や製造工程を説明。その後は酒蔵を見学し、蒸し米やこしじなどの原料を発酵させた「も

ろみ」をかき混ぜる「かき入れ」の作業を体験した。同社の日本酒5種類の利き酒も行った。韓国出身の全茂怡さん(23)は「日本酒は『苦くて大人向け』というイメージだった。偏見がなくなり、造る人のこだわりを理解するきっかけになった」と話していた。(宮本夕梨華)